

論文番号	7 (第 11 回研究会 2013.11.23 於 恵泉女学園大学)
タイトル	主体的表現「やはり／やっぱり」の示す「既成観念への回帰」の意： 近現代の日本語辞書・和英辞書の記述と ‘after all’
著者名 (所属)	加納 麻衣子(ノートルダム清心女子大学大学院 文学研究科日本語日本文学専攻 博士 後期課程)
連絡先 Eメール	dahelitsalan@yahoo.co.jp

論文内容

(背景および研究目的)

先行研究では「やはり」は日本語学習者にとって難解な語であると述べられているが、その原因究明には至っていない。この解決策として「やはり」の歴史的変遷過程を追うことにし、近現代の日本語辞書と和英辞書の記述・記載について分析した結果、客体的表現から主体的表現へと変化・移行したことが分かった。後者は、①「既成観念への回帰」の意と②「思ったとおり」とに区分される。主体的表現とは客体的表現に対するもの(時枝 1953)であり、この区分は昨今の認知言語学からも着目されている。②を認識との関連で分析したものに氏家(1996)の「含過程構造」説があり、英語対応表現として‘as I expected’を挙げている。が、現実には話し言葉では通常、この様な表現を使うことがないため、日本語小説の英訳で当該語は無視、誤訳され続けている。では、もう一つの主体的表現である①「既成の観念の回帰」はどうであろうか。①と②との意味上の関係や分化の過程を分析し、①の特徴について解明したい。

(検討方法等)

近現代の日本語辞書と和英辞書での当該語の意味記述調査(加納 2012, 2013)を基本資料とする。日本語辞書の記述から①「既成の観念への回帰」型の形成される過程を追い、②「思ったとおり」型との異同について考察する。和英辞書に関しては①の英語対応表現と日本語辞書記述に与えた影響を検討。

(結果および考察)

近現代の日本語辞書、和英辞書を併せて検討した結果、主体的表現に二種の意味を確認した。①「既成観念への回帰」の意、②「思ったとおり」に区分できる。日本語辞書に記載されたのは②は 1950 年代だが、現実の使用開始が早いと思われる①は 1960 年代後半である。①は和英辞書に言い換え語句として‘after all’が記載(1906『実用和英新辞典』)され(これは「結局」と結び付けて理解された)、この段階を経て日本語辞書へ記載された可能性がある。非母語話者はこうした和英辞書、また、日本語教科書を通じて日本語の理解、翻訳を行う。日本語教科書には‘after all’を対応表現とするものがある。英語圏の学習者が「やはり」=‘after all’と捉えると、母語の‘after all’と同じ内容を示すのかと誤解する。しかし、‘after all’とは氏家(2012)によれば a.「すべてのことがなされた後で」、b.「関連事項をすべて考慮に入れて」、c.「期待に反して」の意味を持ち、この内、b.が部分的に①に対応するだけである。(なお、Schourup・和井田(1988)では「最初に思っていたとおりに意図・計画などが実現した結果」とある。)①はこのように‘after all’と完全に一致することはない。このため非母語話者に正確に理解されず、難解な語とされたと考えられる。

(結論)

近現代の日本語辞書と和英辞書の記述の検討から主体的表現は①「既成の観念への回帰」と②「思った通り」とに二分できた。英語相等語句としては②は説明的表現‘as I expected’であるが、①は‘after all’とされたことに発し、‘after all’=「結局」という理解の下に、英訳においても「結局」相等語句に置き換えるという構図が作られた。‘after all’という副詞句は結果が「意に反して」である場合を含み、二転三転したときに用いられることは一般的ではない。さらに、「以前のものに立ち戻る」という心的過程に着目したものでもない。つまり、①の英語相等語句とは言えない。このことから、「やはり」は日本語特有の語であると言う指摘ができる。

参考文献・氏家洋子(1996)「日本語の含過程構造」『言語文化学の視点:「言わない」社会と言葉の力』おうふう・氏家洋子(2012)「直接的認識表現ヤハリの生成過程:日本語の「含過程構造」のコード化」日本語学論学会第 15 回大会配布資料、加納麻衣子(2012)「主体的表現「やはり／やっぱり」の成立:近現代の日本語辞書の意味記述検討を通して」『清心語文』No.14 1-14、加納麻衣子(2013)「近現代の和英辞書における「やはり／やっぱり」の記述」『Immaculata』No.17 64-73、時枝誠記(1953)「言語における主体的なもの」『金田一博士古希記念 言語民族論叢』三省堂・Lawrence Schourup・和井田紀子(1988)『ENGLISH CONNECTIVES 談話のなかでみたつなぎ語』くろしお出版